

令和五年度

小論文

(60分)

流通科学部 流通科学科

解答はすべて解答用紙に記入すること

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、この問題用紙を開かないこと。
- 二、問題用紙は、表紙を含めて三ページである。
- 三、解答用紙は、二枚である。解答は縦書きにすること。
- 四、受験番号・氏名は、監督者の指示に従って記入すること。
- 五、問題用紙の余白等は適宜使用してよい。

問題

流通科学部

流通科学科

次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

我々の欲望は、さまざまな要因の作用によって形づくられる。たとえば家族、国籍、社会階層、遺伝子などがその要因だ。そして、『必要』（たとえば食事）を『欲望』（たとえばステーキ）へと変える広告の役割もここに加えなければならない。

広告が果たす前向きな役割について、多くの例を挙げることができよう。広告は、我々が必要としたり楽しんだりするかもしれない数多くの製品・サービスについて知らせてくれる。苦勞してクーラーボックス用の氷を用意していた我々に、電気冷蔵庫の便利さを紹介してくれた。食器を手洗いして一枚ずつ乾かしていた我々に、食洗機のことも教えてくれた。その意味では、広告は消費者にいくばくかの現金を使わせるわけだが、結果的に生活の質は向上することになる。

また広告を見ることで、訴えかけの内容をよりの確に判断する訓練を積み、商品の特徴や利点を鵜呑みにしないようになれる。さらに広告のおかげで我々は、大金をかけてつくられたラジオやテレビの番組を無料で楽しむことができる。人々の注目を数分間でも浴びたいスポンサーがいるため、直接おカネを払わなくて済むのである。

一方で、広告を批判する人も大勢いる。ソースタイン・ヴェブレン、ジョン・ケネス・ガルブレイス、ダニエル・ベル、ヴァンス・パッカードらは、広告業界が力を持ちすぎであり、あらゆる策略を講じて我々に不要なものまで買わせていると主張する。

広告業界の匿名男性の言葉を紹介しよう。「私は広告業界で何年間も働いてきたから断言できる。いまの時代は嫉妬と欲望、そして蕩尽とうじんがフル回転で生産されている。人々が何を恐れ、どんな希望と夢を抱き、何に苦勞しているのか。どうすれば彼らをいい気分させることができるのか。それを我々は知っているのだ」

我々は一日に五〇〇〇以上の広告を見せられている。ピカピカの新車、素敵な洋服、美味しそうな食事、どうしても欲しい電気製品――日々、こうしたものを見せつけられる。同じ機能を持つ商品でも性能の微妙な違いを説明され、「本日限り」の特売だからますます買いに走らないと、と警鐘を鳴らされることもしょっちゅうだ。三〇秒間のコマーシャル・フィルムは一方的に優れた面だけを強調し、どんな商品であろうと決してマイナス面には触れない。

いまや、すべての世代が広告業界からの約束を耳にしながら育ってきた。あなたをもっと美しく、さらに素敵に、より安全に、いまよりも満ち足りた状態にします、と。

現代人にとって朗報なのは、インターネットと携帯電話のおかげで物事の両面を知ることができるようになった点だ。友人はあなたに教えてくれる。広告ではこう言っているが自分が使ってみてこの点は気に入った、この点は納得できない、など。またインターネットを見れば、製品やブランドに関するさまざまな評価を参考にできる。自分でブログを開設して、メーカーや製品、サービスの品質について友人や見知らぬ人に伝えることさえ可能だ。持続可能な暮らし方や健全な消費行動について知りたければ、書籍や情報が簡単に入手できる。

広告を擁護する人々は、広告による操作などしていないと訴え、消費者には選択の自由があると言い張るだろう。そのような主張に対し、広告に批判的なベンジャミン・バーバーは、（中略）物質主義に陥る過程を二つのステージに分解する。まず最初に、子どもたちをターゲットにした広告によって彼らが『消費者』化され、頻繁に買い物に出かける習慣を身につけるようになる。次に大人たちに対しては、多くのモノを欲しがり、自分が選

んだブランドによって自己を確立する子どもであるかのように扱うのだ。このような大人は、「我消費す、ゆえに我あり」と考えるようになる。

洪水のような広告が生み出す問題は他にもある。すなわち、収入から許されるより多くのモノを消費したいと人々に思わせる点だ。しかも金融業界が、「いま買って、後で払う」という思考法を広めようと、簡単に利用できるローンを用意して待ち構えている。誰でも一枚や二枚はクレジットカードを持つており、申込書に記入するだけですぐさま車やテレビ、その他の「良いモノ」を入手できる。二〇〇八年には、一万四〇〇〇ドルの年収があれば、七〇万八〇〇〇ドルの家を買うほどの借金ができた。いまや大学生が学費を払うために抱えこんだ借金、全体で一兆ドルにも上る。学費は毎年、インフレ率を上回るスピードで値上がりしているのだ。

安易な融資を続けても、銀行は心配する必要がない。相手が返済不能になれば、いつでも自宅や車を取り上げることができるし、また学生のローン返済については政府の支援を当てにできる。

広告と銀行の思うつぼにはまり、いつのまにか我々は「その場限りの満足感」を追い求める社会を築き上げてしまったようだ。そのような社会は、放つておいてもみずから過剰に消費し、過剰な借金を抱え、バブル経済を生み出す。そのバブルもいずれはじけ、昔ながらの景気循環の物語が相も変わらず続いていくのだ。

（フィリップ・コトラー著、倉田幸信訳『資本主義に希望はある』ダイヤモンド社 二〇一五年より一部変更して転載）

（注）蕩尽…財産などを使い果たすこと。

問一 文中の言葉を使い、広告のメリットを二〇〇字以内で記述しなさい。

問二 文中の言葉を使い、広告業界への批判を二〇〇字以内で記述しなさい。

問三 広告が欲望を作り出すことが述べられているが、広告に関するあなたの意見を二五〇字以内で記述しなさい。